

講義科目名称： 臨床薬理学

授業コード： 2220201000

英文科目名称： Clinical Pharmacology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
◎葛城美德			
添付ファイル			

授業種類	<p>【開講】 前期</p> <p>【授業時間】 15時間</p> <p>【担当教員】</p> <p>【氏名】 ◎葛城 美德</p> <p>【研究室】 314</p> <p>【本学の科目区分】 専門基礎科目</p> <p>【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程</p> <p>【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ◎</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物一般に共通する知識や看護業務に必要な薬の知識を得る。 ・各種疾患に対する治療薬の薬理作用機序を理解し、適正使用の知識を得る。
------	--

授業概要	薬理作用の基礎、副作用・中毒および各種疾患治療薬の薬理作用機序について講義する。また、各種疾患に対する薬物治療方針についても講義する。
------	---

授業計画	<p>1 授業内容 授業形態：対面 学習課題：薬理作用の基礎・看護に必要な薬の知識と薬物療法における看護師の役割 学習内容：薬物作用の原理薬物作用と受容体相互作用、薬物動態（吸収、分布、代謝、排泄）、TDM、薬の副作用・中毒と相互作用、単位、処方箋、添付文書、薬の管理等 備考：</p> <p>2 授業内容 授業形態：対面 学習課題：抗感染症薬①病原微生物と抗菌薬 学習内容：感染と病原微生物、抗菌スペクトル、抗菌薬の作用機序、ウイルス感染と抗ウイルス薬作用機序 備考：</p> <p>3 授業内容 授業形態：対面 学習課題：抗感染症薬②ウイルス感染症と抗ウイルス薬 学習内容：ウイルス感染と抗ウイルス薬作用機序 備考：</p> <p>4 授業内容 授業形態：対面 学習課題：抗腫瘍薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬 学習内容：抗腫瘍薬の作用機序と各論、分子標的薬の作用機序、アレルギーや炎症に対する薬剤の作用機序と各論 備考：</p> <p>5 授業内容 授業形態：対面 学習課題：循環器系に作用する薬物①・② 学習内容：高血圧・狭心症・心不全・不整脈に対する治療薬、利尿薬、高脂血症薬、血液凝固等に作用する薬剤、貧血治療薬など 備考：</p> <p>6 授業内容 授業形態：対面 学習課題：（仮題）薬剤師とクスリ ～病院薬剤師に日常～ 学習内容：病院薬剤師の仕事内容や看護師に知ってほしい薬剤師の仕事について 備考：ゲストスピーカー</p> <p>7 授業内容 授業形態：対面 学習課題：呼吸器系・消化器系に作用する薬物、生殖器・泌尿器系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬 学習内容：喘息、咳・痰に用いる薬、消化性潰瘍、下痢、便秘、消化管運動改善に用いる薬物、女性生殖器・男性生殖器・泌尿器に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬</p>
------	---

	<p>8</p> <p>備考： 授業内容 授業形態：対面 学習課題：精神・神経系作用薬①・② 学習内容：中枢伝達物質、全身麻酔薬、鎮痛薬、抗不安・催眠薬、抗てんかん薬、パーキンソン病治療薬、躁うつ病治療薬、抗片頭痛薬、鎮痛薬、認知症治療薬 備考：</p>
事前・事後学習	<p>（事前学習）講義予定に即した指定教科書の内容を一読することが望ましい。</p> <p>（事後学習）講義中に指示した内容については、教科書もしくは配布資料をよく読み理解を深める。</p>
評価方法、評価基準	到達目標に対し、筆記試験を100%として評価する。
必携図書	「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学」（医学書院）
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・講義のハンドアウト資料およびVTR等の視聴覚資料を基にして授業を進めます。 ・臨床生化学や感染学の教科書（必携図書）も参考になると思います。
受講、課題、資料配布等のルール	当日配布する資料と教科書の対応部分を中心に講義します。詳細は初回の講義で説明します。
教員からのメッセージ	薬物一般に共通する知識を学び、各種薬剤の作用原理や副作用、その適正使用について講義します。臨床現場で医師や薬剤師の説明を理解でき、患者に対しては簡単な説明ができるよう、しっかり学習してください。
オフィスアワー	